

火山防災会議でハザードマップ作成へ

1月24日、役場大会議室で28年度大雪山火山防災協議会（会長・松岡市郎町長）の総会が開かれ、旭岳を中心とする大雪山で想定される火山現象、警戒避難体制の整備に向けて大雪山ハザードマップ、防災計画の作成の検討などを協議しました。



東川町、上川総合振興局、札幌管区気象台、北海道開発建設部、陸上自衛隊第2師団、北海道警察本部、大雪消防組合、上川町、美瑛町など関係機関が出席しました。

2014（平成26）年9月の御嶽山（標高3千767m、長野、岐阜両県境）噴火を契機に、大雪山のハザードマップ、防災計画の必要性が求められ、関係機関が集まりました。

儀部英彦旭川地方気象台長は「2010（同22）年の観測開始以降大きな変化はない」と観測継続を報告。中川光弘北海道大学理学研究院教授は、「旭岳周辺は過去1万年の間に噴火実績があり、最後のマグマ噴火後5千年前ごろを境に活動が止まっていること、

大雪山の価値を改めて考えるフォーラム

2千800年前と700年前に最低2回の水蒸気噴火があったこと、その後規模が低下している」などと活動評価しました。

今後のハザードマップ、防災計画作成に当たっては「2千800年前と同じような噴火が起きた時に東川市街

ひがしかわ観光協会は昨年11月、同12月に続いて「大雪山の価値について考えるフォーラム in 東川町」の最終フォーラムを2月12日、町文化芸術交流センターで開き、地元が受ける大雪山の恩恵の大きさと価値、利用への新たな取り組みを考えました。



実施を目指す活動の取り組みスタート
○高価値の農産物を提供し、若者が安心して農業に取り組み続けることのできる恵みの重要性と必要性などを訴え、価値を共有できる取り組みの必要性を提言しました。

まための今回は、北海道大学大学院地球環境学研究院の渡辺梯二教授、NPO（特定非営利活動）法人もりねつとの山本牧北海道代表、樽井功東川町農協組合長の3人が出席。○世界ジオパークの実現性○世界遺産の登録

地まで泥流が行くかどうか今後の調査」「旭岳の活動は火山としては末期だが、小規模の噴火は考えられる。ここ10万年くらいの間、大雪山火山群の活動そのものは低下傾向にはない」などと考えを示しました。

1回目のフォーラムは大雪山の価値と保全に関して、世界遺産指定など先行事例を例に挙げて意見交換しました。2回目は、東川の地下水利用と水循環境である大雪山を守る活動の発表を通して、持続可能な地域づくりを意見交

「小巻き」取組もあつちで更新

1月29日、第一小学校（前田昭彦校長、31人）で行った手作りののり太巻き「小巻き」が昨年を4・74メートル延ばして32・35メートルに記録を更新しました。

お米は学校田で収穫した「ゆめぴりか」30キログラムの中から、去年より3キログラムも多い18キログラムを用意しました。太巻き

の具になったかんぴょうときゅうり、お吸い物用の豆腐になった大豆、だし用シイタケ、みつばも自分たちで栽培し、材料から手作りで栽培してみんなで作った特製の「小巻き」です。



て豆腐作りとみつば栽培をしたことを発表しました。農家の皆さんから手ほどきを受けて3、4年生は米作りとシイタケ栽培、5、6年生はかんぴょう栽培の観察結果ときゅうりの粕漬体験を発表しました。どうやって食べものが出来るのか難しさと楽しさを学んだよう。